# DBSのサポート終了オプションの明確化

## 内容


はじめに

メンテナンスの終了

DBSとECCRを交換してください

DBSのアップグレード

DBSの機能の終了


## はじめに

このドキュメントでは、2024.09最終リリース後のBroadWorks Database Server(DBS)のオプションについて説明します。

## メンテナンスの終了

BroadWorks Database Server(DBS)とEnhanced Call Center Reporting(ECCR)は、2024年9月30日にメンテナンス終了(EoM)を迎えました。使用可能なDBSの最新バージョンは2024.09です。DBS用のECCRおよびECLアプリケーションも廃止され、アップデートの受信ができなくなります(『アプリケーションリリースノート』のリリース2024.10_1.260を参照してください��

- CCRレポート
- CCReportingDB管理
- CCReportingRepository
- DBSObserver
- EnhancedCallLogsDBManagement

さらに、PublicReportingアプリケーションの最終バージョン（通常はXSPに展開）が2025.02年に公開されました。

## DBSとECCRを交換してください

ECCR機能とDBSは、Call Center Event Recording(CCER)に置き換えられました。 CCERを使用するには、サードパーティのレポートおよびデータベースソリューションを実装し、ECCRの設定を削除する必要があります。ECCRでは、アプリケーションサーバ(AS)がデータをJSONとして提供し、サードパーティのデータベースソリューションに送信しました。 CCERを使用するには、BroadWorksがリリース22.0以降を実行している必要があります。

次のディレクトリでCCER機能を有効にします。

```
AS_CLI/Service/CallCenter/EnhancedReporting>
```

AS上のファイルは次の場所に表示されます。

```
/var/broadworks/ccEventRecording/
```

詳細については、『CCER機能の説明』を参照してください。

# DBSのアップグレード

DBSのアップグレードは推奨されなくなり、代わりにDBSを使用停止することが推奨されます。ただし、DBSをアップグレードする必要がある場合は、OSのバージョンがアップグレードパスにどのように影響するかを理解しておく必要があります。ソフトウェア互換性マトリクスを見ると、DBSは実際よりもアップグレードしやすいようです。

次の表に、サポートされているOSに対応するBroadWorks DBSのリリースを示します。

R21:Linux 5、6
R22:Linux 5.9以降、6.5以降
2018.11 ～ 2020.08:Linux 6.5以降、7
2020.11以降：Linux 7.5以降のみ
2022.07以降：Linux 7.5以降、8.5以降
2024.07以降：Linux 8のみ
2024.09：最終リリース、DBSメンテナンス終了

たとえば、リリース22.0のLinux 6.5で実行されているDBSは、まず2020.08にアップグレードする必要があります。次に、Linux 7を実行しているハードウェアと交換する必要があります。その後、DBSを2024.06（Linux 7をサポートする最後のバージョンのDBS）にアップグレードできます。 その後、DBSを2024.09の最終リリースにアップグレードするために、ハードウェアをLinux 8に切り替える必要があります。

# DBSの機能の終了

EoM日を過ぎてもDBSとECCRを使用し続けることはお勧めしません。推奨処置は、DBSとECCRを廃止して、CCERとサードパーティのデータベースおよびレポーティングソリューションに交換することです。

DBSは、EoMの日付以降も機能し続けます。ただし、サポートされなくなり、互換性を維持することは保証されません。DBSは最終的にBroadWorksシステムの他のコンポーネントとの互換性を失います。最初に確認されている非互換性は、リリース2025.07以降です。

BroadWorksリリース2025.07では、Java JDKをバージョン11にアップグレードします。その結果、Java 8用に構築されたアプリケーションとJava 11用に構築されたADPとの間に互換性がありません。EECRアプリケーションはEoMであるため、Java 11用に更新されておらず、2025.07以降を実行するADPには導入できません。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。